

太郎」と言われ、荒んだ日々を送っていました。結婚して四人の子どもを授かりますが、サト、ルイは三才、ノブ、そめは三才で亡くなり、愛娘を次々と失いました。どんなにか辛かったことでしょう。

ヒマ人が道楽で寺に参るのだと思っている人もいるみたいですが、今も昔もそんな人はいません。

真剣な求道

そんな中、二人は懸命に仏法を求めました。善太郎さんのお寺（光現寺）には、善太郎さんが書写した善導大師の『歸三宝偈』や、法然聖人の『一枚起請文』、『無量寿經』四十八願文などが展示してありました。考えてみると当たり前ですが、真剣に求めると「法座でお聴聞して終わり」にはならないんですね。

善太郎さんの書写



また、才市さんは、聞けど学べど如来のお心が腑に落ちませんでした。真剣に求めるが故のことでしょう、才市さんは痛癢をおこし「もう如来さんとは縁切りだ」と言っています。仏壇に釘を打ち付けたといいます。公開されている才市さんの家にお仏壇があります。



仏壇の釘の跡

した。早速穴を撮ろうとカメラを構えると、正座して合掌している人がいました（恥）。

道は確かにある

話を元に戻して、このような真摯な求道を経て、お二人は信心を開発し、苦悩の人生を超えてゆく眼を開くことができました。家にお仏壇もなく、お寺の法座に参るなんて思いもしない現代、絶望する人が後を絶ちませんが、道は確かにあるのです。

ダメ住職

旅行の翌日、本願寺会館で連研（連続研修会）がありました。連研は話し合い形式の研修会で、六月のテーマは「私だけが幸せでよいのでしょうか」サブテーマは「大きな災害や事故が起こるたびに、私の身近でなくてよかったと

思っていました。」でした。私はふと、旅行から帰ってきた日の晩、「島根は夕方から大雨で大変だったらしいよ」と誓子（新坊守）が言っていたのを思い出しました。私は

その時「帰ってきたんだからもういいんだ」と思ったのですが、自分（たち）のことだけ考えて「よかったよかった」と喜んで帰った念仏者って何だろう、その時ようやく気づきました。どうしてあの帰りのバスでひと言、「天候に恵まれてよかったですねえ、でも自分たちの都合だけ考えて喜ぶのってちよつと浅ましいですね」ぐらい言えなかったのか。ああ、深みも社会性もないダメ住職です。

（岩崎智寧・新住職）



金婚式で参拝

昨年（2012年）十月七日、吉中恒雄さんと美智子さんが金婚式の記念にお参り下さいました。

吉中さんご夫妻は、五十年前のまさにこの日、蔵本通支坊本堂で挙式されました。残念ながら当時の本堂はもうありませんが、式の写真を拝見すると、その時お焼香に使用した象の香炉がまだお寺に残っていて（写真右奥）、五十年ぶりに同じ香炉でお焼香してもらいました。吉中さんは「入院したり色々ありましたが、どうにか五十年を迎えることができました」と感慨深げでした。皆さんもご縁が整えばどうぞお参り下さい。

